

デジタル・スマートシティの取り組み

～ 都市づくり・市民サービス・自治体運営 ～

Digital Smart City HAMAMATSU

令和2年9月17日



1 プロフィール（だれだおまえ？）





- ・ 瀧本陽一
- ・ 45才
- ・ 専門は建築（都市計画）
- ・ 国際畑長い
- ・ NY勤務2年
- ・ 好きなことは
ダイバシティと
オープンであること

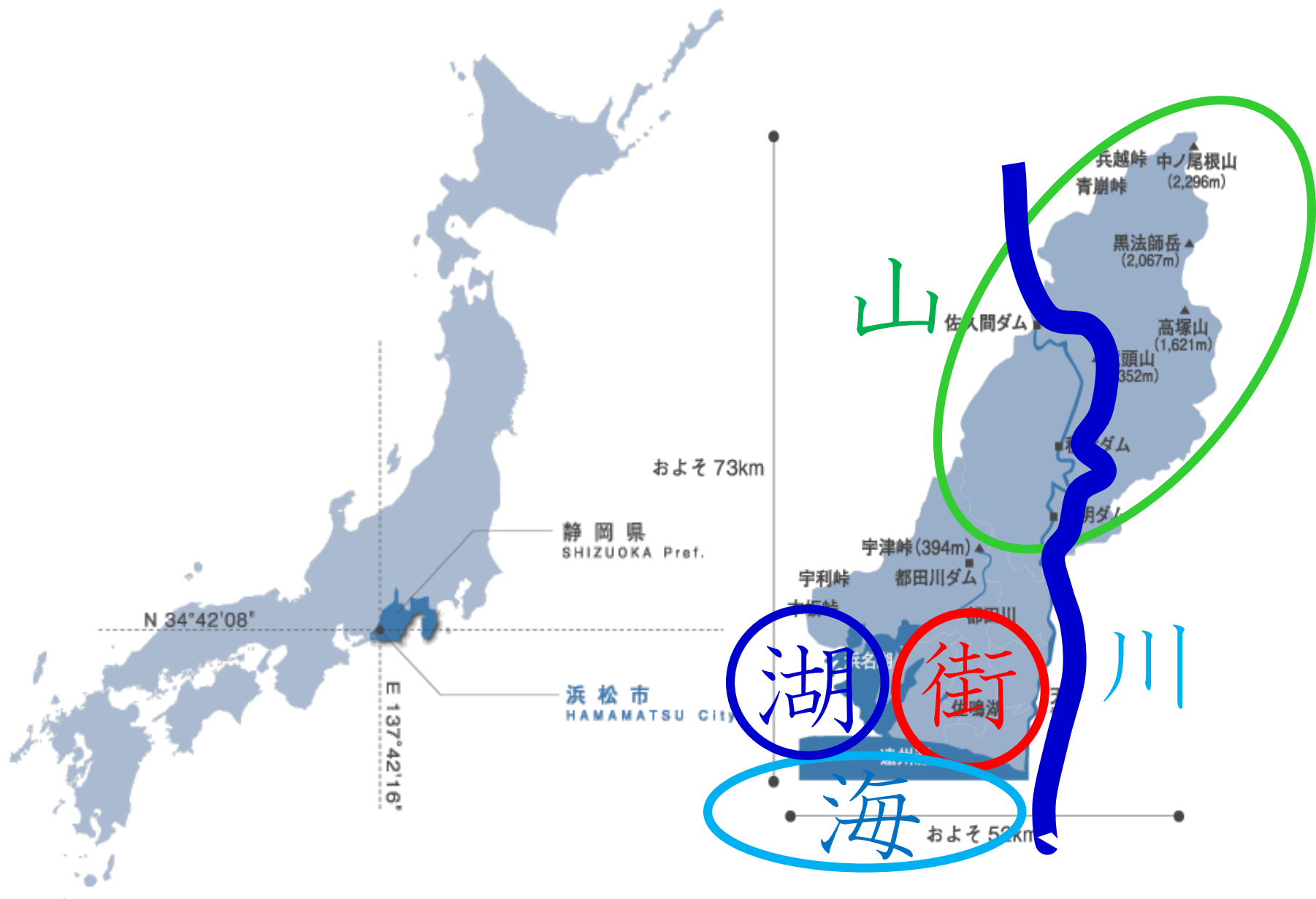


- 村越功司
- 46才
- 専門は福祉畑
- ジュビロが好き
- ねこが好き
- ウォーターフォール
と敬語が嫌い
- 好きな技術はP2P
- マイブームは
シビックテック

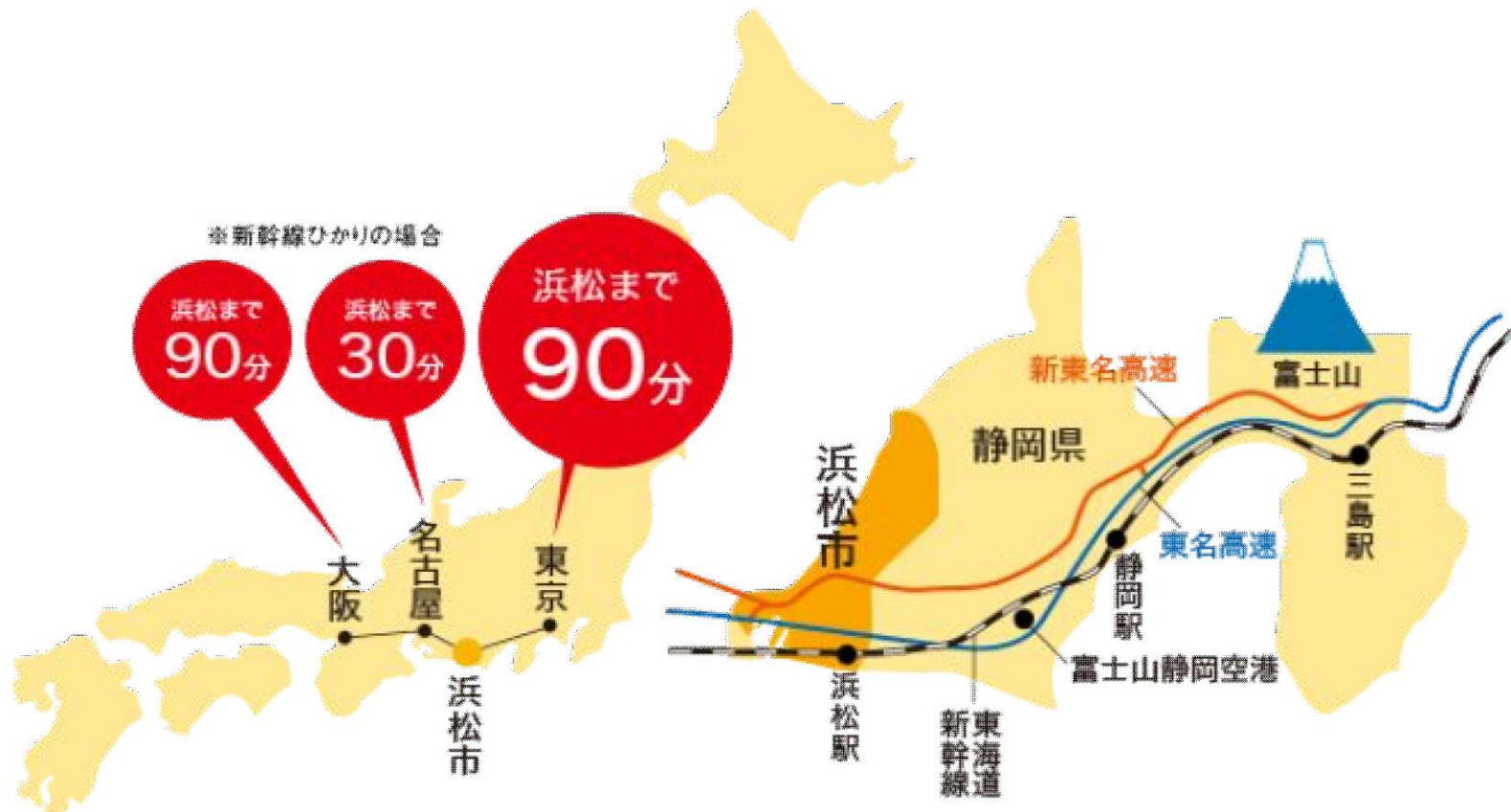
2 浜松市の紹介（浜松ってどこや？）



浜松市ってどこ??



- 東京、大阪、名古屋へのアクセスの良好。
- 多拠点居住、多拠点活動などにもってこい。



人口：802,856人

(2019年10月1日現在)

幸福度ランキング：3位

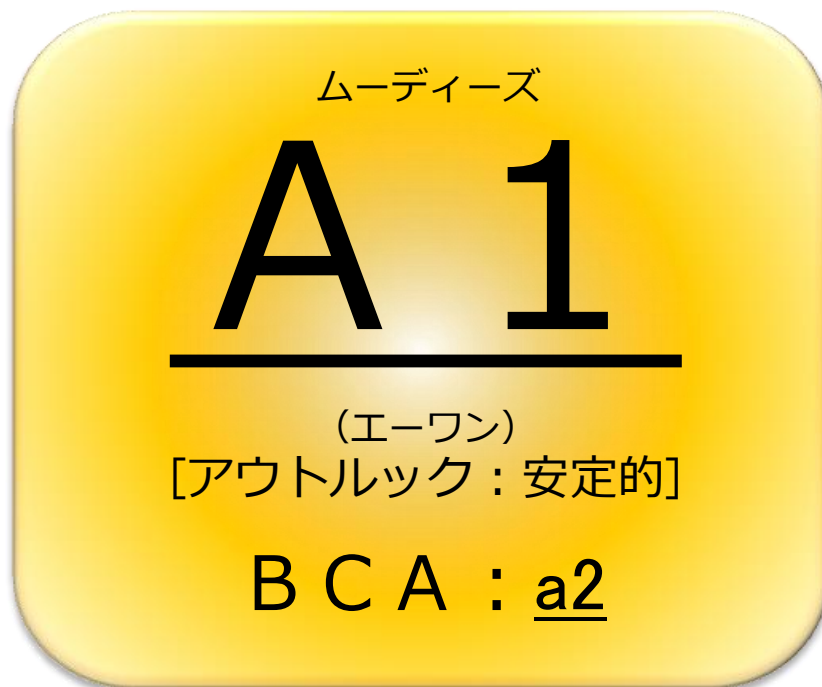
(政令市20市中 2020年日本総研)

健康寿命：1位

(政令市20市中 2016年厚労省)

日照時間：3位

(たしか・・・)



財政運営の質と安定度は
自治体中随一の高評価

- 優れた財政規律に支えられた高い財政パフォーマンス
- 堅実な財政運営の実績に示される強固な行財政運営
- 国内比較で、最も低い債務負担比率
(純直接・保証債務/経常的歳入※が100%を下回る唯一の国内格付先団体)









三ヶ日みかん ハイボール



3 浜松市のデジタル・スマートシティ取り組み





- (1) 「都市づくり」のデジタルファースト
【都市の最適化】
- (2) 「市民サービス」のデジタルファースト
【市民サービス向上】
- (3) 「自治体運営」のデジタルファースト
【自治体の生産性向上】

ここまではよくある話。。

専門の「部」を 新規に作った。

デジタル・スマートシティ推進事業本部

- ・通称「デジスマ本部」
- ・部長以下10名体制（兼務3名）



完全フリーアドレス

1. フリーアドレス。職位に関係なく座る。
2. その時の業務内容に応じたメンバーの近くで仕事（アメーバ風）
3. 机だけ。引き出しもなし。余分なものは持ち込まない。
4. 毎日、鍵付鉄庫にPCを保管して帰宅。
5. ハイテーブル（立ちスペース）でミーティングはショート。



まず自分たちからマインドチェンジ
（全庁のショーケースとして横展開）



本気です

5 浜松市デジタル・スマートシティ構想 (中間整理)

Digital Smart City HAMAMATSU



現状と課題

人口減少・少子高齢化

インフラ老朽化

自然災害の激甚化

COVID-19

⋮

- 従来の方法や体制では解決が困難な状況
- まちづくりや都市経営に新たな視点や変革が求められている

デジタル活用による課題解決への期待の高まり

先端技術や様々なデータを活用し、官民連携で地域課題の解決や、よりよい暮らしの実現を目指す「デジタル・スマートシティ」への期待が国際的に高まっている。

浜松市
デジタル
ファースト宣言
(2019年10
月)

先端技術やデータなどデジタルの力を活かし、持続可能なまちづくりを行う「デジタル・スマートシティ」の取組を始動。

国の政策動向やまちづくりの潮流

「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備
デジタルニューディール

次世代型行政サービスの
強力な推進

DXの推進

新しい働き方・暮らし方

変化を加速するための
制度・慣行の見直し

「新たな日常」が実現される 地方創生
多核連携型の国づくり、地域の活性化

東京一極集中型から
多核連携型の国づくりへ

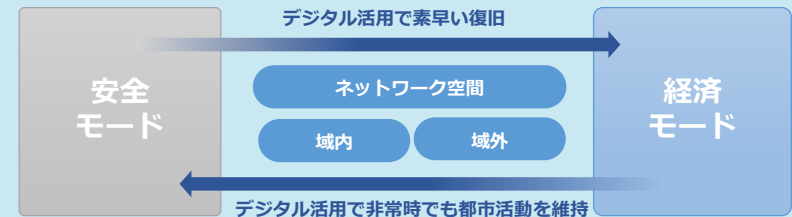
地域の躍動に繋がる
産業・社会の活性化

- スマートシティの社会実装を加速化
- データ・情報共有によるサプライチェーン全体の効率化
- 二地域居住、兼業・副業支援強化
- オープンイノベーションプラットフォームの構築

(出所) 内閣府 経済財政運営と改革の基本方針2020

COVID-19/災害激甚化に対応する持続可能な社会

デュアルモード社会の構築



II 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

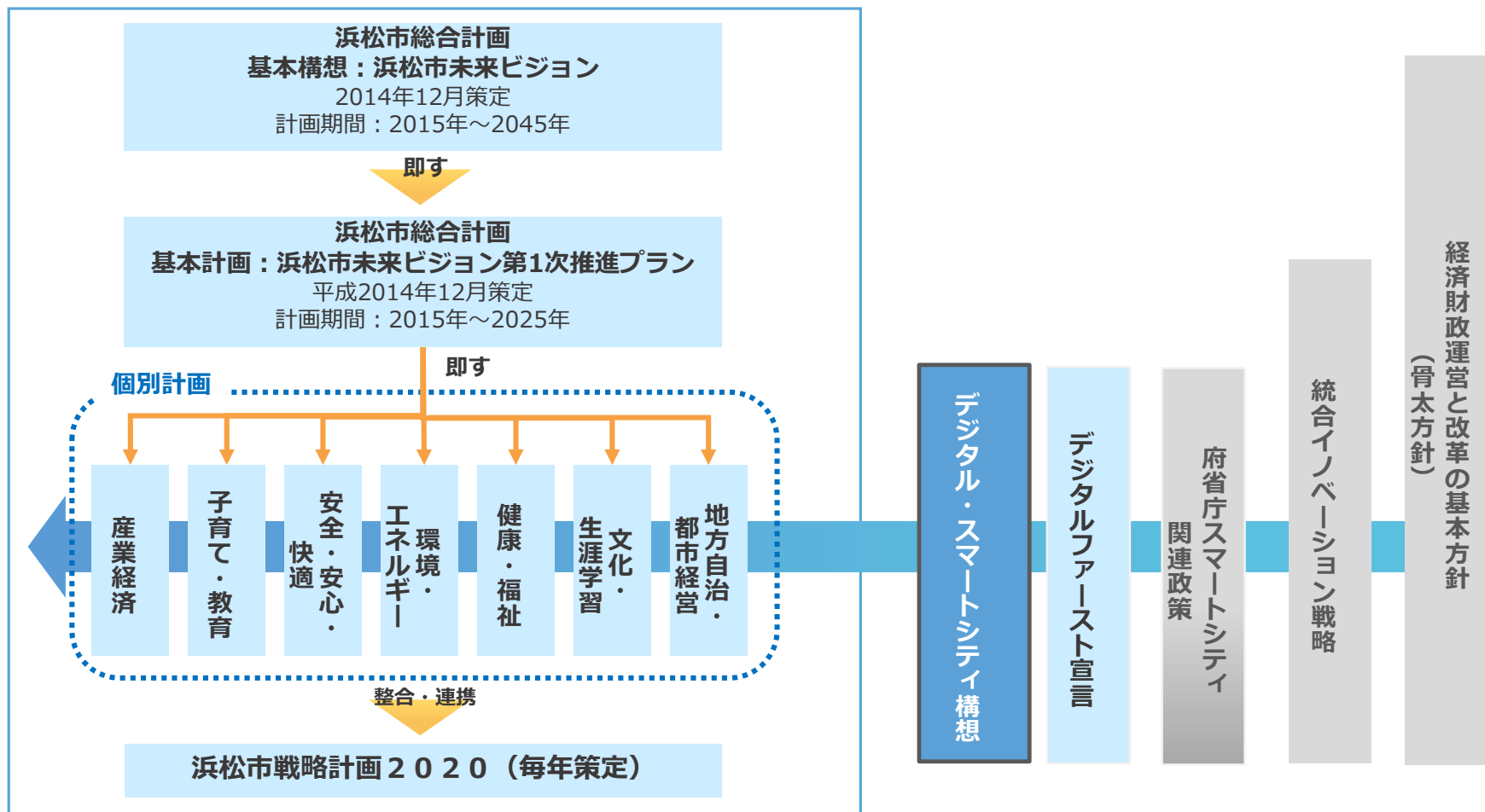
Digital Smart City HAMAMATSU

■ 構想策定の趣旨

「浜松市デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指す。

■ 構想の位置づけ

「浜松市デジタル・スマートシティ構想」は、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画であるとともに、デジタル活用の観点から分野横断的な取組の指針となるもの。



Ⅲ 将来像／目指す方向性（基本理念）／必要な視点／基本原則

Digital Smart City HAMAMATSU

将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ渦の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QOLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創。

目指す方向性（基本理念）

「市民QOLの向上」と「都市の最適化」

必要な視点1

オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を超えた共創のまちづくりを推進します。



必要な視点2

市民起点／サービスデザイン思考

デジタルは、「市民QOL」「都市の最適化」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進します。



必要な視点3

アジャイル型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、トライ&エラーを繰り返し、変化に強いまちづくりを推進します。



基本原則1

オープン／相互運用性

基本原則2

包摂性／多様性

基本原則3

透明性／プライバシー

基本原則4

持続可能性

基本原則5

安全・安心／強靱性

Ⅲ - 1 将来像：デジタルで“繋がる未来”の概観

Digital Smart City HAMAMATSU

デジタルの力を最大限に活用し、課題解決型のアプローチ（ペインキラー）と、未来に夢と希望を持てるチャレンジ（ムーンショット）を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を共創します。



デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。



遠隔医療やIoTを活用した見守りでどこでも安心して生活。AIがデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。



世界の学校と繋がりがオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。



高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がり、それぞれの力を発揮。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータを駆使し、付加価値が向上した儲かる農林業が実現。



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由にどこへでも移動。

【デジタルで“繋がる未来”のキーワード】

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）



スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジェが対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がり安全安心な社会を実現。

Ⅲ－２ 取組推進の視点

デジタル・スマートシティの推進にあたっては、以下の3つの視点で取り組みます。

視点1

オープン イノベーション



- 多様な主体が自律的に参画し、組織や分野を越えた共創のまちづくりを推進することで、イノベーションの創出を目指します。
- オープンであることや相互運用性等を大切に、創発性の高い環境を構築します。

視点2

市民起点/ サービスデザイン 思考



- デジタル化を市民に強いたり、技術やソリューションありきではなく、デジタル活用はあくまで市民QOL向上や地域課題解決の手段と捉え、市民起点のまちづくりを推進します。
- サービスやソリューションの創出にあたっては、利用者目線で考える“サービスデザイン思考”で取り組みます。

視点3

アジャイル型 まちづくり



- スモールスタートで果敢にチャレンジし、トライ&エラーを繰り返すことでニーズに合ったサービスやソリューションを創出します。
- 環境変化のスピードが速い時代において、作りこみすぎないことや回遊性の担保などに配慮し、変化に強い、しなやかなまちづくりを推進します。

Ⅲ - 3 基本原則

Digital Smart City HAMAMATSU

官民共創のまちづくりやアジャイル型のまちづくりを支える共通のルールとして、以下の5つの原則を基本原則としてデジタル・スマートシティを推進します。

1 オープン／相互運用性

- データを流通させることで新たな価値を生み、多様な主体が参加することでイノベーションを創発するため、オープンであること、そして、相互運用性が高いことを原則とします。
(オープンな議論の場、オープンデータ、オープンソース、標準API、GitHub上でのオープンな開発等を推奨)

2 包摂性／多様性

- デジタル化を人に強いるのではなく、あらゆる人の社会活動や都市運営をサポートするツールとして活用していきます。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、包摂的で多様な社会を目指します。
- 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、社会的なインパクト（課題解決への寄与等）を大切にしていきます。

3 透明性／プライバシー

- データの流通や活用には、信頼関係の構築が欠かせません。信頼関係の構築のため、透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組んでいきます。
- 収集されたデータは、ダッシュボードやBIツール等を活用し、積極的に可視化していきます。また、データに基づく政策形成（EBPM）や合意形成などのまちづくりにも活用していきます。

4 持続可能性

- 新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、設計や実証実験の段階から、運用面、財政面の両面から持続可能であることが重要であることを十分に認識し進めていきます。
- 財政的な負担においては、受益者を意識した設計を行うとともに、資金調達においては、既存の枠組みに捉われない持続可能な調達のあり方を検討していきます。

5 安全・安心／強靱性

- 自然災害や不慮の事故、サイバー脅威、その他トラブルによる障害が生じても最低限の都市機能を維持し、早急に復旧できるよう配慮し、システムや体制の構築に努めます。
- 環境変化のスピードが速い時代において、作りこみすぎないことや、回遊性の担保など、変化に強いしなやかなまちづくりを推進します。

IV 推進体制とエコシステム

Digital Smart City HAMAMATSU

「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」を中核に、官民共創でデジタル・スマートシティを推進し、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。

市民QOLの向上と都市の最適化

◆オープンイノベーション ◆市民起点 ◆アジャイル型まちづくり

地域課題解決

イノベーションや新たなビジネス創出

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

◆分野間連携推進 ◆データ利活用推進 ◆事業化支援 等



データ連携基盤 (API・データ統合基盤)

※オープンデータの推進

行政

- ◆避難所
- ◆休日当番医
- ◆病院、診療所
- ◆学校、幼稚園、保育園 等

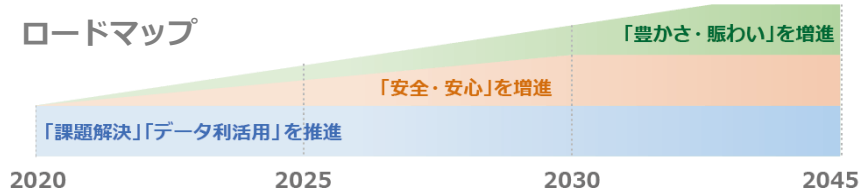
民間

- ◆交通
- ◆電力
- ◆決済
- ◆健康 等

空間

- ◆水位
- ◆温度
- ◆道路渋滞
- ◆駐車場の満空 等

ロードマップ



市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献

■ 推進体制

- 官民連携プラットフォームは、各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ利活用を推進。
- 官民連携プラットフォームは、民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。



■ 目指すエコシステム

- ベンチャーなどから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- トライ&エラーを繰り返し、社会実装へと繋げる。

【市民】

市民は、実証実験への参加やサービスを選択するという間接的な参加やシビックテックなど直接的な参加を通じ「市民QOL向上」に貢献。

【企業】

企業は、地域課題の解決に貢献することで新たなビジネスやイノベーションの創出の機会とする。

「国土縮図型都市・浜松」の多様な実証フィールドの活用



6 各分野の取組（今年度）





1. エネルギー分野の取組

Digital Smart City HAMAMATSU

取組概要

エネルギー・スマートシティの実現に向け、主な4つの柱（再エネ拡大、省エネ推進、スマート化の推進、環境・エネルギー産業の創出）を軸とした事業の拡大により、安心・安全で安定的なエネルギーを賢く利用し、持続的に成長発展する都市を形成する。

再生可能エネルギーの拡大

民間

行政

- 太陽光、風力、水力、木質バイオマス発電設備等の拡大、適正導入、維持管理の推進
- 地域の再生可能エネルギーの活用（地産地消）



浜松新電力の設置

民間

行政

- 浜松版スマートシティの担い手として官民出資により設立
- 市域内にある太陽光、清掃工場（バイオマス）から生まれる電気を市域内の公共・民間施設へ供給
- 将来的にはシュタットベルケ（生活支援総合サービス）を目指す



スマートプロジェクト事業

(スマートシティ推進協議会)

民間

行政

- スマートシティの推進役として「浜松市スマートシティ推進協議会」を設立
- 官民連携による事業の実装に向け、スマートプロジェクトを4エリア、3つの研究会で展開中



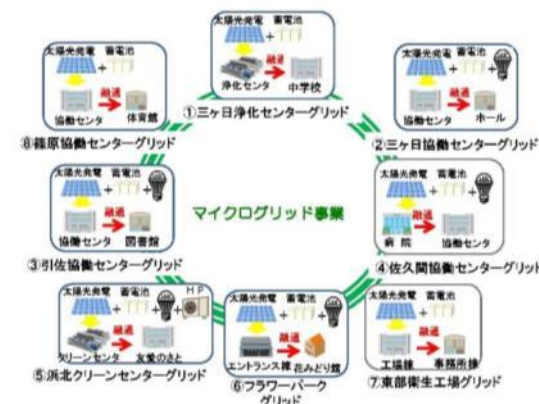
このほか3テーマの研究会…下水熱、データ活用、VPP

マイクログリッド事業

民間

行政

- 公共施設16カ所を8グリッド化
- 地域・建物に応じた再生可能エネルギーの利用、蓄電池を利用したエネルギーの最適利用、グリッド間制御による電力需給対策等を実施





2. モビリティ分野の取組

取組概要

利便性が高く持続可能な公共交通ネットワークを構築するとともに、先端技術やデータ、サービス間の連携など次世代モビリティサービスへの取組を推進する。(浜松版MaaS構想の策定、浜松市モビリティサービス推進コンソーシアムの設立)

自動運転の実証実験

民間 行政

『浜松自動運転やらまいかプロジェクト』

- 実施主体：浜松市、SBドライブ(株)、スズキ(株)、遠州鉄道(株)
- 自動運転技術を活用したスマートモビリティサービスの事業化に向けた実証実験
- 段階的かつ継続的な実証実験を行うことで、本市に最適な自動運転システムを構築
- 自動運転車を営業運行した時のビジネスモデルや収益構造をシミュレーションし、実現性を高める検討の実施

令和元年度実証実験概要

期間：令和元年12月10日(火)～23日(月)
8:00～16:30
運賃：無料
車両：スズキソリオ(小型自動車)
距離：片道約1.3km
所要時間：約2.5分



使用車両 →

【運行ルート:遠州鉄道(株)館山寺営業所～桜台SC】



ICTを活用した地域バスの運行

行政

- 実施主体：浜松市
- 従前のバス停を約2倍に増やし、利便性を向上。利用者増加。
- 利用実態(相乗り率、予約不成立等)の分析が可能



出典：国土交通省東北運輸局「バス制度の概要について」

MaaSの取組

民間

- 実施主体：遠州鉄道(株)
- MaaSアプリ「EMot」の電子チケット発行機能を活用した「デジタルフリーパス」や「飲食チケット」





3. 防災・安全分野の取組

取組概要

地震、津波、河川はん濫、土砂災害、風水害等の災害や市民生活の安全に関して、迅速・的確な情報提供及び応急対策を行い、市民の生命、身体、財産及び産業基盤を守り、安心して暮らすことのできる都市を形成する。

浜松市防災情報システム

行政

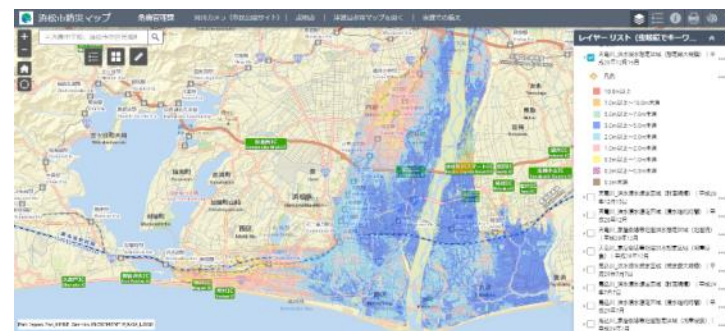
- 災害時、各部署が把握している災害情報を庁内で共有



浜松市防災マップ（防災GIS）

行政

- 災害情報を地図上で可視化し、情報を発信



テレビ会議システム

行政

- 災害対策本部と防災拠点をつリアルタイムで接続

ビデオカンファレンスサービス提供概要図



Net 119

行政

- 音声による119番通報が困難な方が、スマートフォンなどでインターネット、GPSを利用して、簡単に通報



防災アプリ

行政

- 区版避難行動計画や緊急避難場所をAR表示





4. 健康・医療・福祉分野の取組

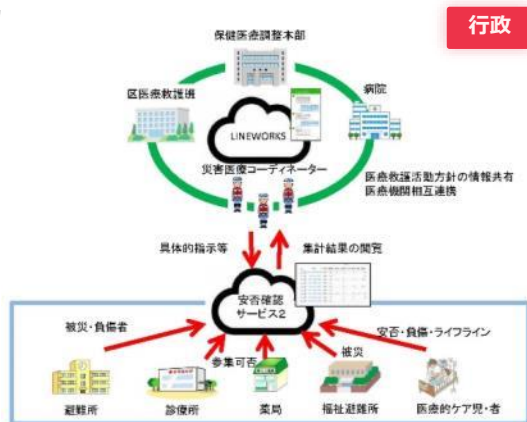
Digital Smart City HAMAMATSU

取組概要

予防、介護、医療、生活支援、住まいに関する必要なサービスを包括的に提供できる体制を構築し、市民が互いに支え合いながら、自立した日常生活を営むことができる持続可能な都市を形成する。

災害医療ネットワーク

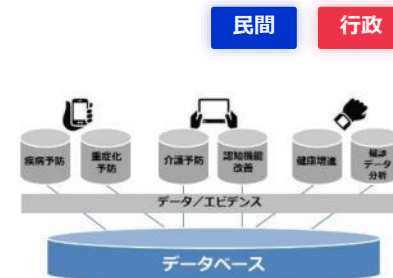
- LINEWORKSを用いて、災害時に行政・医療関係団体・医療機関が連携するためのネットワークを構築
- 避難所・診療所・医療的ケア児者の安否や被災状況を収集・集計するために、クラウド型安否確認サービスを利用



行政

浜松ウエルネスプロジェクト

- 官民連携コンソーシアム「浜松ウエルネス・ラボ」において、ヘルスケアアプリなどを活用した疾病・介護予防や健康づくりに関する実証事業を実施し、データやエビデンスを取得・蓄積。また、健診データ等のビッグデータの分析も実施。

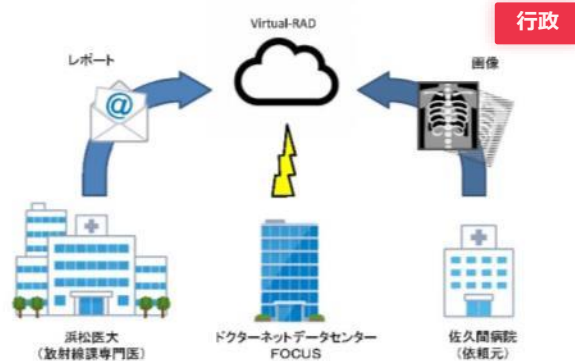


民間

行政

遠隔読影

- 佐久間病院で撮影したCT・MRI画像を、浜松医大の放射線専門医が読影



行政

AIを活用した特定健診受診率向上

- AIが特定健康診査対象者と健診データを基に受診動向などを分析、対象者に適した通知内容を作成

行政

オレンジメール

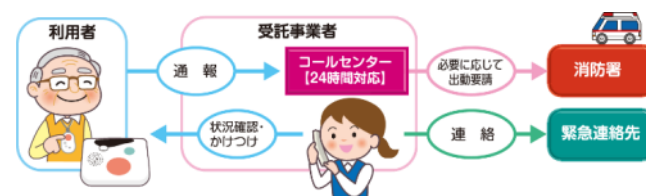
- 認知症状により所在不明となった時、協力者に行方不明者情報を配信、捜査協力を依頼



行政

緊急通報システム

- 緊急通報システムを貸与し、緊急時の連絡体制の確保を支援



行政



5. 農林業分野の取組

Digital Smart City HAMAMATSU

取組概要

農業経営者の育成や先端技術の活用などにより、チャレンジ・工夫で「もうかる農業」を実現するとともに、FSC 森林認証制度に基づく持続可能な森林管理と天竜材・製品の流通・販路拡大に取り組み、林業成長産業化を推進する。

次世代施設園芸の推進

行政

- 農業者が減少した遊休農地を再整備して、AIやICTを活用した次世代施設園芸を展開

候補地エリア図



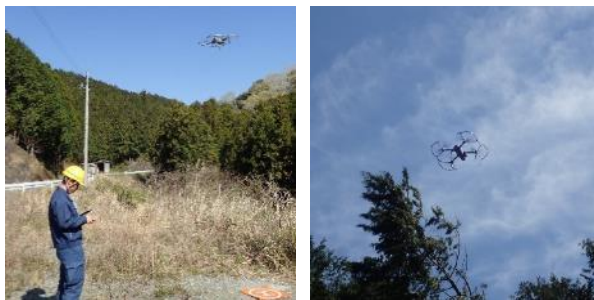
位置図

次世代施設イメージ図

スマート林業の推進

民間

- ドローンを活用した森林資源情報の収集



スマート農業の推進

行政

- スマート農業推進事業費補助金
- スマート農業の普及・拡大のため、先進的栽培技術設備の導入に対する助成を実施することにより、農業者の所得向上を図るとともに「もうかる農業」を実現
- 事業期間：令和2年度～令和4年度

生産から出荷までの先端技術の例

耕起・整地



自動走行トラクタの無人協調作業



ICT農業用建機

移植・播種



ドローン播種



乗用型全自動移植機

栽培管理



リモコン式自動草刈機

自動走行スプレーヤ



イノシシICT捕獲檻

施肥



ドローンを活用したリモートセンシングと施肥

収穫



アスパラガス収穫ロボット



イチゴ収穫ロボット



収穫野菜自動運搬車

経営管理



経営管理システム

出典：農林水産省 平成31年度農林水産予算概算決定の概要 スマート農業加速化実証プロジェクト



6. 教育・子育て分野の取組

Digital Smart City HAMAMATSU

取組概要

学校における ICT 環境の整備を進め、子どもたちの情報活用能力の育成、効果的な授業・交流活動を実施するとともに、二トやひきこもり等の社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者を支援するため、ICTを活用した効果的な相談体制や支援機関相互の連携強化を図る。

「GIGAスクール構想」実現に向けた取り組み

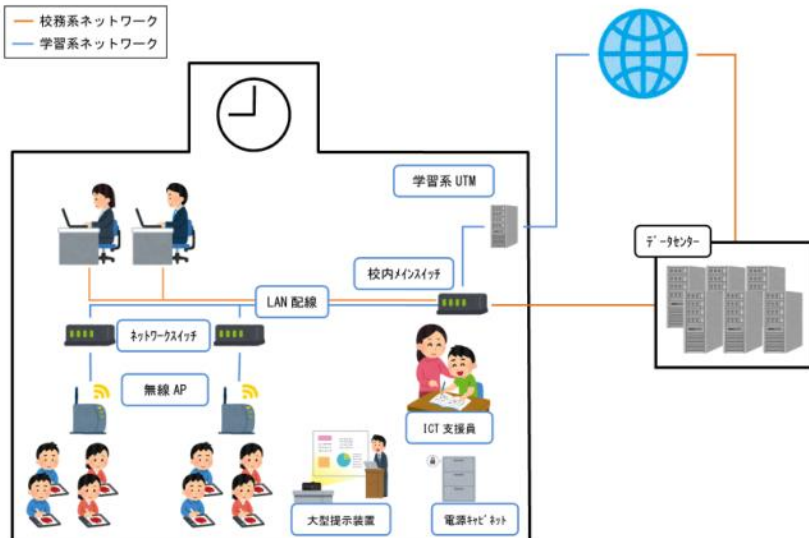
行政

- 児童生徒1人1台コンピュータの実現
- 高速大容量の通信ネットワークの整備

対応方針・スケジュール

| 整備内容 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | 合計 |
|--|----------|---------|---------|------|----------|
| ① 学習者用タブレットPC【R4年度までに「1人1台」の整備】 | | | | | |
| ・学習者用タブレットPC ・学習用アプリケーション(繰り返しドリル) | 46,927 台 | 9,000 台 | 9,023 台 | | 64,950 台 |
| (うち補助分) | 41,927 台 | - | - | | 41,927 台 |
| (うち地財分) | 5,000 台 | 9,000 台 | 9,023 台 | | 23,023 台 |
| ② ネットワーク環境整備【R2年度で整備】 | | | | | |
| ・校内無線アクセスポイント(40台同時接続可能な機器) ・インターネットアクセス回線(1Gbps程度) | 142 校 | | | | 142 校 |

「GIGAスクール構想」における環境整備イメージ図



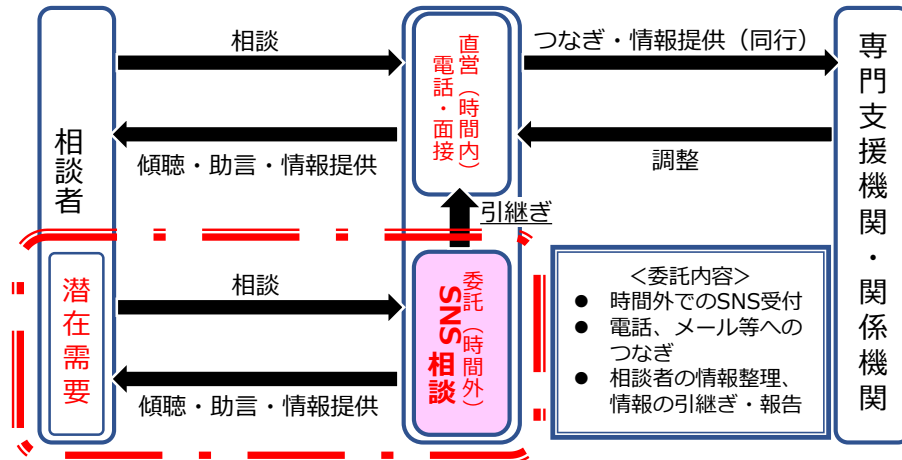
SNSを活用した相談対応

行政

- 若者相談支援窓口「わかば」における、SNS(ライン)を活用した相談対応

< SNS相談に期待する効果 >

- 若者本人からの相談増
- 早い段階からの支援介入
- 若者のネット上での居場所



7. 観光・商業分野の取組

取組概要

キャッシュレス対応、デジタル技術や最新ツール等の活用により、本市の認知度及び魅力度向上を図るとともに、受入環境整備を行い、国内外からの観光客の滞在・周遊促進と商業の活性化を図る。

キャッシュレス対応

民間

実施主体：浜松まちなかにぎわい協議会（浜松まちなかマネジメント株）

『はままつスマぐるウィーク』

MaaSアプリ「Emot(エモット)」の電子チケット発行機能を活用し、アプリで購入したスマホチケットで浜松駅周辺の飲食店巡りをするイベント



（チケット購入）

- ① EmotをDL
- ② チケットストアからチケット選択
- ③ クレカで支払

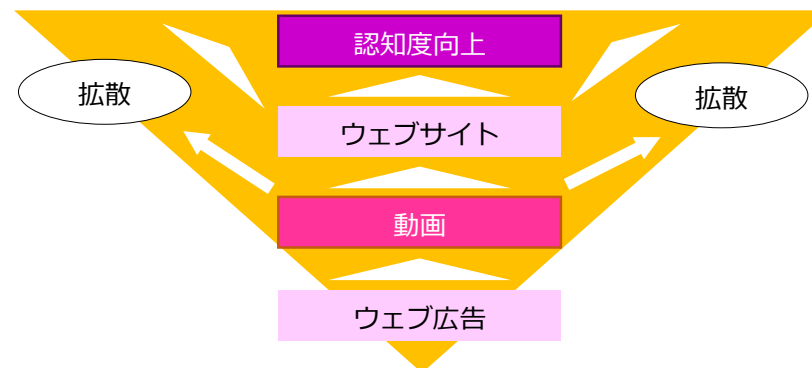
（チケット利用）

- ① アプリにてチケット選択
- ② QRコード読取
- ③ 画面を店員に見せる

デジタルマーケティングの推進

行政

- 本市の観光資源や魅力等を紹介する動画の作成及び広告配信
- OTAとの連携による浜松・浜名湖エリアの宿泊促進、観光客向けイベントや観光情報サイトのWEB広告による誘客促進



動画イメージ

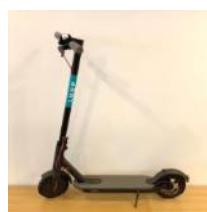


電動キックボードの実証実験

民間

行政

- 新しい公共交通と観光のあり方を検討する連携協定
- 次世代モビリティである電動キックボードの実証実験



（写真左）協定締結時の様子
（写真右）株L u u pの使用する電動キックボード



取組概要

新産業創出に向けた技術開発・事業化支援、ベンチャーキャピタルがベンチャー企業に投資し易い環境の整備、ベンチャー企業への実証実験の場の提供等により、新たなリーディング産業が集積する持続可能な地域経済を形成する。

ハッカソン

行政

- 全国から優れたアイデアや技術を持った参加者を集め、テーマに沿った新たな製品やソリューションを作り上げるイベントの実施
- ※ ハッカソン(Hackathon)：コンピューター熟練者が高い技術力を駆使してシステムを操ることを意味する“Hack”と“Marathon”の造語

<令和元年度開催概要>

開催日：11/30～12/1

会場：The Garage for Startups

テーマ：『AI・IoT×未来の農林水産業』

- ・ 農林水産業の生産や流通における課題解決
- ・ 農林水産業の魅力強化や消費者満足度を高めるアイデア

参加者：約50名（大企業・スタートアップ・大学生などが参加）



実証実験サポート

行政

- 全国から独自の技術やアイデアを活用した実証実験プロジェクトを募集し、優秀な案件について、本市の実証フィールドを提供



HEPT

民間

行政

-組み込みソフトウェア技術コンソーシアム-

- 当地域の「組み込みソフトウェア技術」のレベル向上を目指し、大企業-中小企業技術者間の相互理解とエコシステムの構築支援を実施し、地域再生人材創出拠点を形成



中小ものづくり企業IoT化の推進

民間

行政

- 市内ものづくり企業とソフトベンダーなどの中小企業をマッチングさせ、ものづくり企業のIoT化・システム化を促進することにより、生産性向上及びデータ活用による新産業の創出を支援





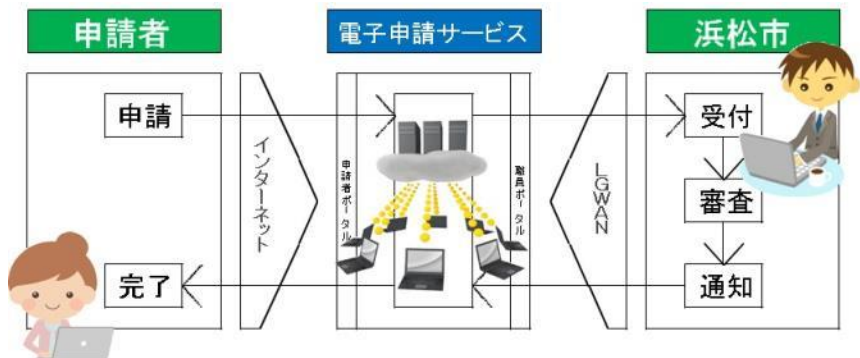
取組概要

AI・ICT等先端技術を活用し、市民サービスを最適なカタチで提供するとともに、業務の効率化・データ活用による自治体運営により、生産性の向上を目指す。

オンライン手続き

行政

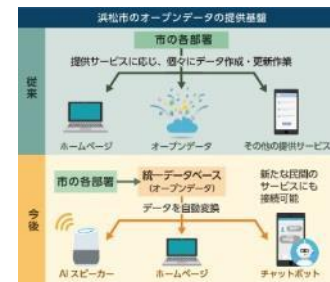
- オンライン申請が可能なサービスを拡大し、市民の利便性を向上



オープンデータプラットフォーム構築事業

行政

- オープンデータ化した「統一データベース」から市公式ホームページの作成のほか、民間事業者が提供するAIスピーカーやチャットボット等のサービスに接続可能なプラットフォームを整備



テレビ会議システム、議事録作成

行政

- 遠隔での会議開催・自動的な議事録作成

AIを利用した連絡ごみの収集受付（社会実験）

行政

- 連絡ごみ収集の受付にLINEと、AIによる自動対話システムを活用

多言語対応

行政

- タブレット端末を利用した外国人市民等との円滑なコミュニケーション



7 官民データ連携基盤実証実験 ORI-Project



浜松ORIプロジェクトとは。

Digital Smart City HAMAMATSU

- ・ スポンサー企業の協力のもと、データ連携基盤のFIWARE（実証環境）と様々なデータを活用してデジタル・スマートシティ推進に向けたサービスやソリューションの実証実験を募集。
- ・ 既存のアイデアに捉われない、自由な実証実験を募集し、浜松発のイノベーションを創出。

実証実験の例

COVID-19対策として混雑を緩和するため、市役所やスーパー等の混雑状況を可視化

IoTデバイス（水位センサー等）と住民からの情報提供等による災害状況の把握と共有

IoTデバイスや車載カメラ等によるインフラの管理やまちの見守り


飲食×身体データ（スマートウォッチ等）×移動データ×検診データ等による総合的な健康管理



データ連携基盤
(実証環境)

浜松をフィールド
とした様々なデータ

 **浜松市**

 浜松市デジタル・スマートシティ
官民連携プラットフォーム

- ふじのくにオープンデータカタログ
- 静岡県の3次元点群データ
- 政府データカタログ
- 国土交通データプラットフォーム
- 気象庁情報カタログ 等

- センサーにより収集するデータ
- 収集にはスポンサーの協力内容を活用することが出来る

SoftBank docomo

「複数分野の連携」「COVID-19対策」の2テーマに関するプロジェクトを推奨。

複数分野の連携



エネルギー



モビリティ



防災・安全



健康・医療
・福祉



農林業



教育・子育て



観光・商業



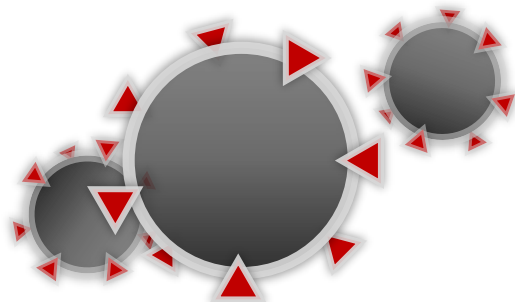
産業
(ものづくり)



デジタル・
ガバメント

- ✓ デジタルの力を最大限に活かしたスマートシティの推進には、多様な主体を巻き込んだ活動が必要不可欠。
- ✓ 複数分野を巻き込んでスマートシティを推進できるプロジェクトを推奨。

COVID-19対策

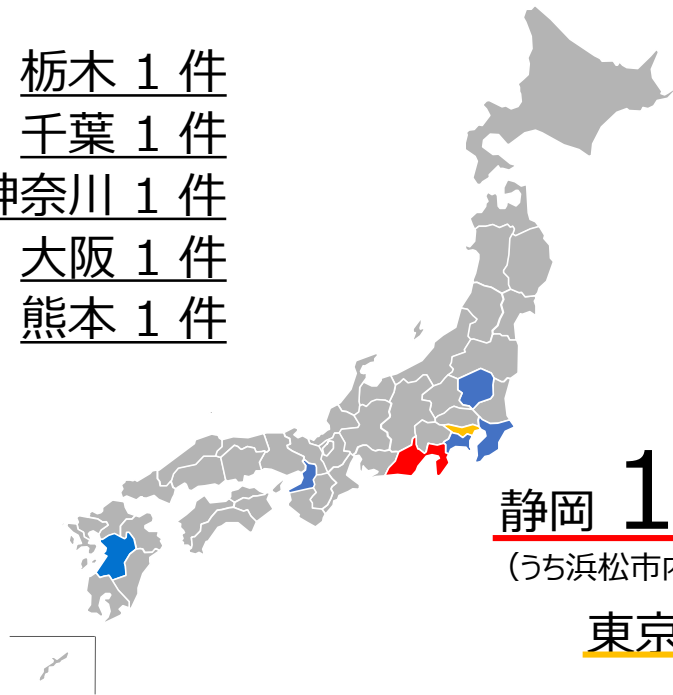


- ✓ 現下の新型コロナウイルスによる影響により、社会全体の価値観や生活が大きく変化。危機的状況である一方、デジタル変革の大きな機会。
- ✓ Withコロナ、Postコロナ社会を見据えたプロジェクトを推奨。

19件のプロジェクトが提案された。地域としては県内の応募者が最多。

地域別内訳

栃木 1 件
千葉 1 件
神奈川 1 件
大阪 1 件
熊本 1 件



静岡 10 件
(うち浜松市内 9 件)
東京 4 件

合計 19 件

選択テーマ



COVID-19対策

7 件



複数分野の連携

6 件

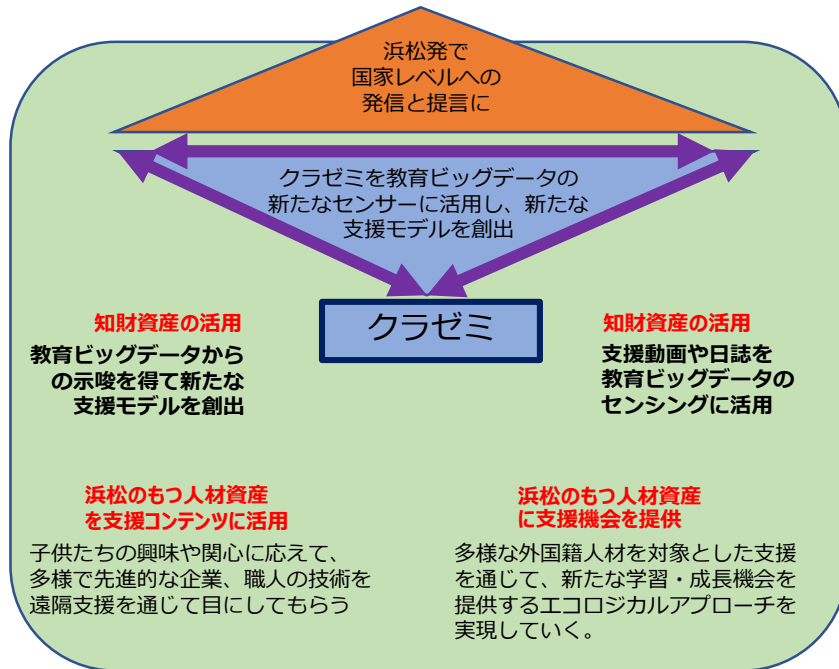


その他

6 件

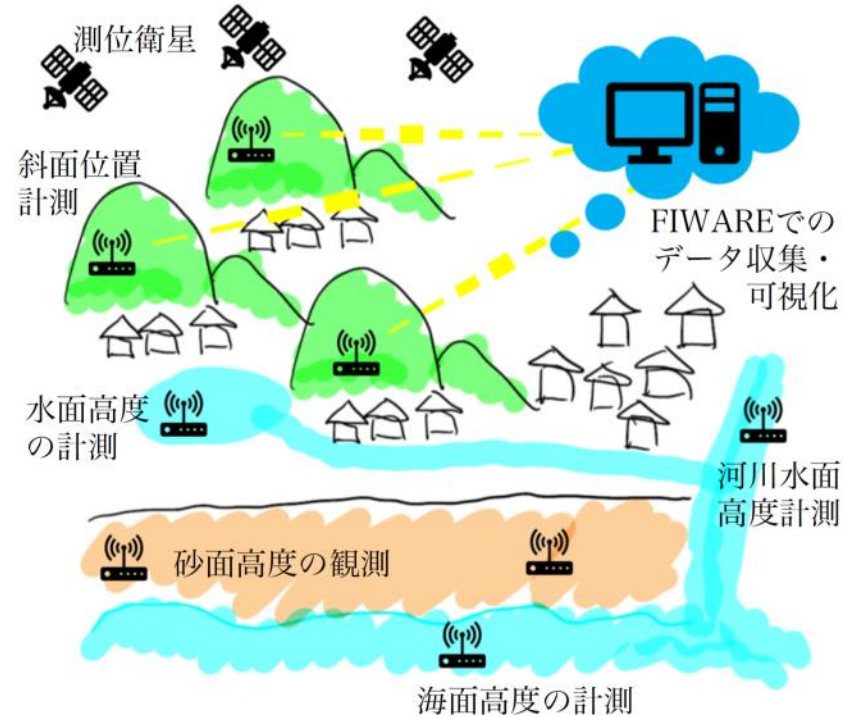


株式会社クラ・ゼミ



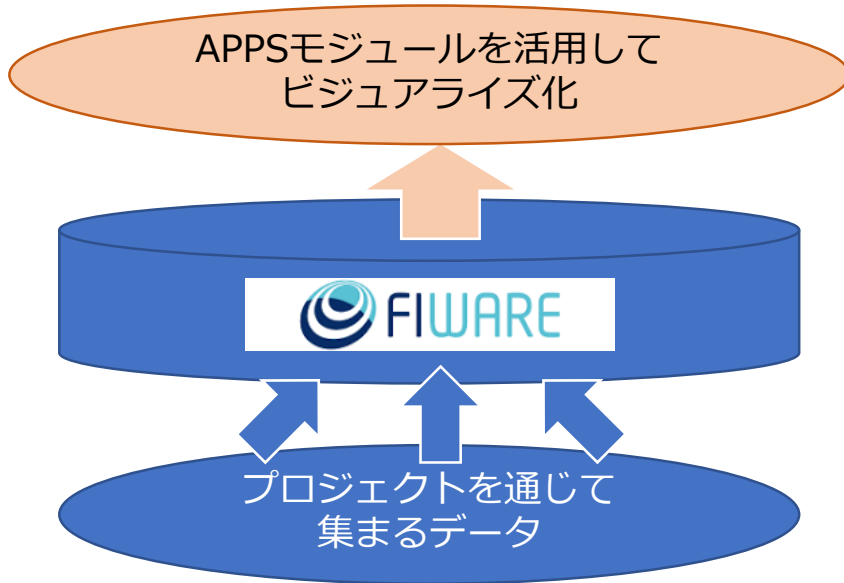
| | |
|----------|---|
| 本拠所在地 | 静岡県浜松市 |
| 代表者 | 倉橋 徒夢 |
| テーマ種別 | 1.複数分野の連携 |
| プロジェクト名称 | きらりサポート・プロジェクト |
| プロジェクト概要 | 発達障がい児への社会的な関心、研究機運の高まりを捉えた新たな支援モデルを構築する。クラ・ゼミの知見を浜松市に共有展開して、浜松市の教育・子育て・福祉のサービス向上の一助となれるよう検証する。 |

静岡大学 情報学部 木谷研究室



| | |
|----------|--|
| 本拠所在地 | 静岡県浜松市中区 |
| 代表者 | 木谷 友哉 |
| テーマ種別 | 1.複数分野の連携 |
| プロジェクト名称 | 高精度衛星測位を用いた市土保全モニタリング |
| プロジェクト概要 | ここ数年で手軽に実現可能になったこの衛星測位によるセンチメートル精度の位置推定技術を用いて、特徴的な地点の地殻や水面の精密な変化をリアルタイムで観測し、防災や市土維持のために役立てられるデータを取得し活用する基盤の構築を目指す。 |

株式会社スマートバリュー

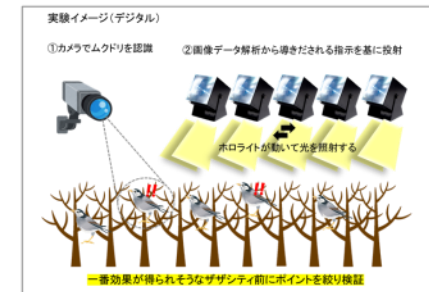


パイフオニクス株式会社

内閣府オープンイノベーションプログラムで実証実験予定のアナログでのムクドリ対策とORI-Projectのデジタルでの実証実験の両輪で効果を検証する。

アナログ=手動

デジタル=自動



アナログで取得したムクドリ羽数データとデジタルで取得したデータの整合性を取ることで定量化と正確な効果検証が可能

| | |
|----------|---|
| 本拠所在地 | 大阪市中央区 |
| 代表者 | 渋谷 順 |
| テーマ種別 | 1.複数分野の連携 |
| プロジェクト名称 | ORI-Projectデータビジュアライズ実証 |
| プロジェクト概要 | FIWARE上に集約されるデータの利活用としてビジュアライズ化を推進し、市民へ向けた有意義なスマートシティプロジェクトであることを示すとともに、弊社でも研究対象であるFIWAREのAPPSモジュールを用いたダッシュボード化、ビジュアライズ化にチャレンジする。 |

| | |
|----------|--|
| 本拠所在地 | 静岡県浜松市東区 |
| 代表者 | 池田 貴裕 |
| テーマ種別 | 1.複数分野の連携 |
| プロジェクト名称 | 光と画像データを活用した中心市街地におけるムクドリ被害対策 |
| プロジェクト概要 | 浜松ザンシティ前の街路樹をめぐらとするムクドリの群れに対して指向性の高いLED光を投射することで刺激を与え目的地まで誘導してムクドリ被害を軽減させる。その際のムクドリの動きを画像解析して定量化し、行動特性を検証する。 |

梅林寺企画

Open data の活用概要図

凡例) ★: open data化検討

今回期間ではまずベースの活用フローを開発します。

下記概要想定の中で一部を抽出して開発とテストを実施します。(災害用保管物資の情報と支援連携 予定)

【支援を受ける側】



- 必要物資 (食料等)
 - ・年齢別・予定人数等 → 自動算出 7代宗義系必需品
 - ・必要な物資の必要な情報の公開 または 申請
- ★ ライフサイン → 継続利用者 (総数または個別)
 - 年齢・性別・地域情報・付帯情報



- 必要物資 (食料・医薬品他)
 - ・年齢別 人数等 → 自動算出 7代宗義系必需品
 - ・必要な物資の申請
- ★ ライフサイン → 短期・継続利用者
 - 年齢・性別・地域情報・付帯情報



- ★ 地域別対応情報 (総数)
 - 年齢・性別・要介護度・付帯情報
- ★ ライフサイン → 継続利用者 (個別)
 - 年齢・性別・地域情報・要介護度等付帯情報

【支援する側】



- ★ 災害時用保管物資 の管理
 - ・使用期限による廃棄前の確保
 - ・地域にあった適正物資の適正在庫の管理
- 災害時の配布
 - ・地域にあった適正物資の適正量の支援 (予測)
 - ・避難所等長期滞在者の特性に応じた支援
- ★ 地域別人口統計 (性別・年齢等)
- ★ 地域別要介護情報
- ★ 地域別乳児児童情報



- ★ 災害時用保管物資 の管理
 - ・地域にあった適正物資の適正在庫の管理
- 災害時の配布
 - ・地域の特性に応じた支援
- ★ 病院等の 透析・検査結果 管理情報 (両側別総数等)
- ★ 地域別要介護情報 (年齢・性別・介護度別総数)

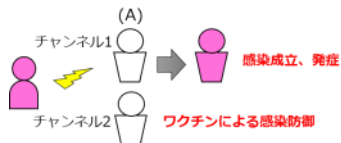


| | |
|----------|---|
| 本拠所在地 | 静岡県静岡市駿河区 |
| 代表者 | 川村 値雅子 |
| テーマ種別 | 1. 複数分野の連携 |
| プロジェクト名称 | 児童・高齢者への支援ネットワークサービス(子ども食堂連携・相互情報提供) |
| プロジェクト概要 | 新型コロナウイルスによる自粛で加速する児童・高齢者の孤立化の解消として、食品・医薬品等物的支援の促進を図るため、既存のオープンデータを利用するとともに、不足のデータやほしいデータの登録機能と利用サービスを提供する。 |



個人(浜松医科大学所属)

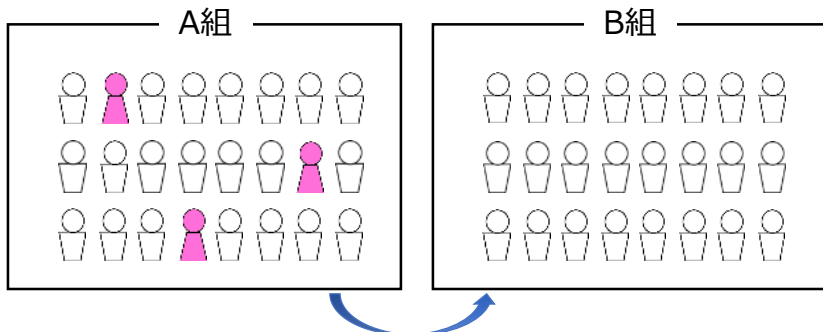
比較実験1: ワクチン効果



比較実験2: 無症状感染の影響



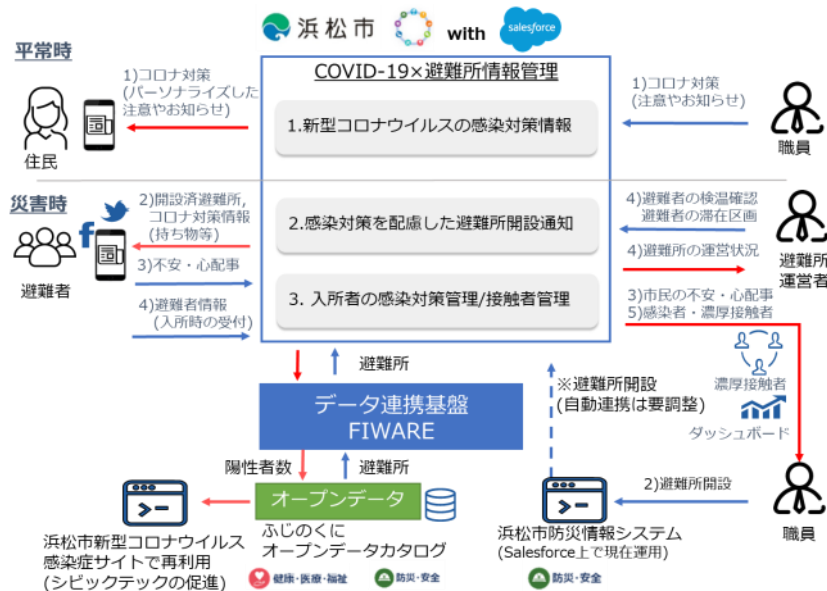
比較実験3: 感染対策としての登下校管理の最適化



A組の感染者が何人くらいになったらB組へ広がるか？

| | |
|----------|--|
| 本拠所在地 | 静岡県浜松市東区 |
| 代表者 | 鈴木 哲朗 |
| テーマ種別 | 2.COVID-19対策 |
| プロジェクト名称 | ウイルス感染の社会実験的シミュレーション |
| プロジェクト概要 | ウイルス伝搬、一定潜伏期間後の二次感染など感染の広がり、実験参加者各人が持つデバイス端末間のシグナル送受信を指標として測定する。住民参加型の実験シミュレーションから得られたデータを共有し、感染症対策についての地域全体の意識、理解を促進する。 |

株式会社セールスフォース・ドットコム

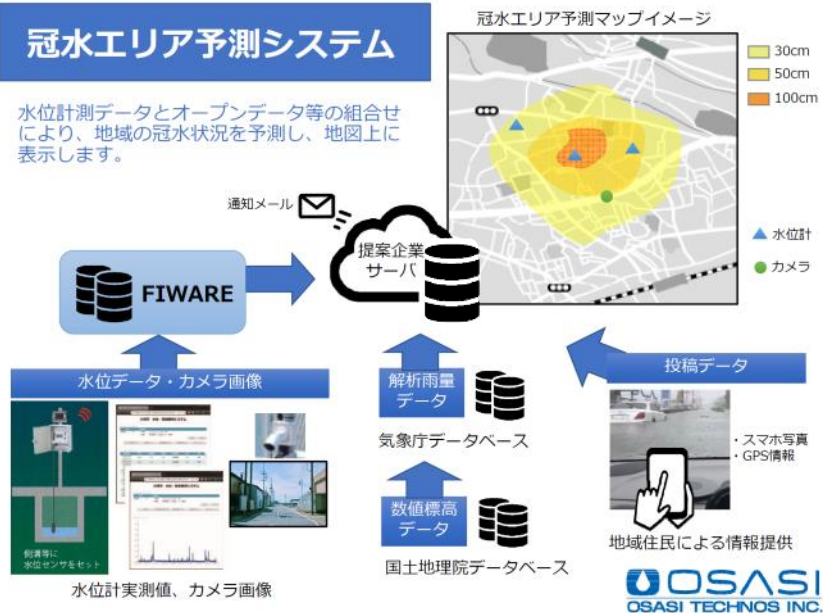


| | |
|----------|--|
| 本拠所在地 | 東京都千代田区 |
| 代表者 | 小出 伸一 |
| テーマ種別 | 2.COVID-19対策 |
| プロジェクト名称 | 避難所におけるCOVID-19感染防止対策の実証 |
| プロジェクト概要 | アプリを活用し、平常時から災害時において①新型コロナウイルスの感染情報の通知、②感染対策に配慮した避難所開設通知、③入所者の感染対策管理/接触者管理などを実施し、COVID-19対策と災害対応の両立を目指す。 |

株式会社オサシ・テクノス

冠水エリア予測システム

水位計測データとオープンデータ等の組合せにより、地域の冠水状況を予測し、地図上に表示します。



| | |
|----------|---|
| 本拠所在地 | 東京都港区 |
| 代表者 | 矢野 真妃 |
| テーマ種別 | 3.その他 |
| プロジェクト名称 | 冠水エリア予測システム |
| プロジェクト概要 | 通常、冠水センサは水位検知センサであるが、本実証では水位を計測できるセンサを使用することにより、その地点の水位から付近一帯の冠水状況を予測し、GIS上に表示する。 |

8 浜松版MaaS構想（中間整理）

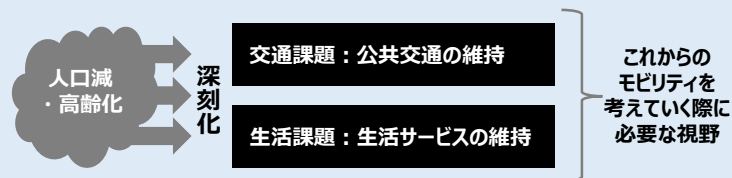
Digital Smart City HAMAMATSU



I. 構想策定の背景

浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。



- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を開始。データ利活用等でMaaSの取組との連携が求められている。



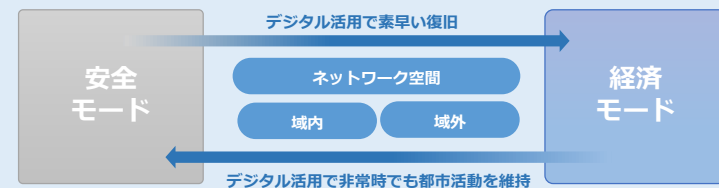
関連動向

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけている。移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられている。

日本版MaaSの推進 (成長戦略)

- ① 地域における移動手段の維持・活性化
- ② モビリティと物流・サービスとの融合
(自家用有償旅客運送の円滑な実施等)
- ③ 新しいまちづくりとモビリティ
- ④ データ連携の加速

- 「Withコロナ/ポストコロナ時代」の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められている。



交通領域にとどまらず市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた新たな発想のMaaSが求められている。新発想のMaaSを実現するための指針やルールを、交通領域にとどまらない様々なプレイヤーと共有、共創するため「浜松版MaaS構想」を策定する。

浜松ならではの強み（リソース）を活かす。

強み①

多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる自然環境（国土縮図型都市）。
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境。



強み②

市民・企業のやらまいか精神や共助の心

- 「やってみよう」「やってやろうじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心（シビックプライド）が、オープンなイノベーションの土壌に。



強み③

ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップグローバル拠点都市でもある。大企業～スタートアップの共創・創発が生まれやすい環境。



Ⅲ. 構想の目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られたリソース（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。
さらに、“繋ぐ”ことで価値を増幅し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1

地域ごとの魅力の最大化

- 都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。



例えば…

- ◆ 豊かな文化を享受する都市の暮らし
- ◆ 自然に囲まれた田舎暮らし
- ◆ 大都市圏との二拠点生活

必要な視点2

ともに支え、ともに創造

- 人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。



例えば…

- ◆ 自家用有償旅客など、公共交通事業者だけに依存しすぎない市民も参加しての移動環境づくり
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の設置

必要な視点3

しなやかに繋がる

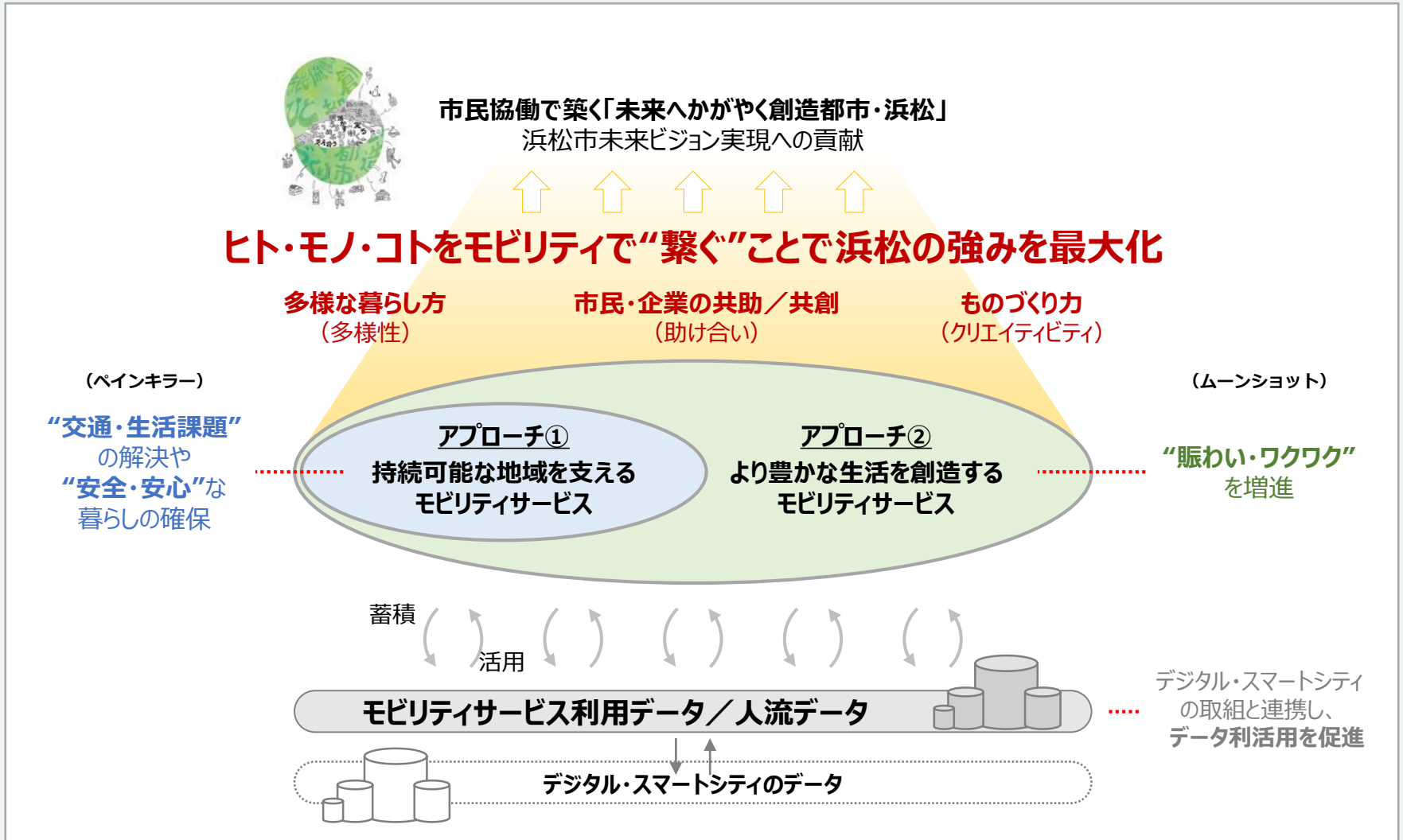
- 利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。



例えば…

- ◆ 技術ありきではなく、市民の生活ニーズから発想（デジタルテクノロジーはあくまで手段）
- ◆ ヒトだけでなく、モノ・コトの移動も包括的に

喫緊の課題への対応（ペインキラー）と、未来へのチャレンジ（ムーンショット）の2つのアプローチを組合せ



持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取組イメージ）

Digital Smart City HAMAMATSU

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保

移動販売

移動販売で浜松の特産物をお届け。買い物に出かけるのが難しくても安心。キッチンカーの普及で気軽に開業！



移動診療

移動診療車を活用し、ICT機器で医師と繋ぎ遠隔診療。服薬指導もオンライン。薬剤配送はドローンにおまかせ！



自家用車を使った乗り合いの促進 （自家用有償旅客運送等）

公共交通の維持が困難な地域を中心に、住民が自家用車を用いて共助型のサービスを導入。



遊休モビリティ資産の活用

福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、遊休時間のあるモビリティの活用で通院や買い物も安心。



自然災害やパンデミックで移動が制限されてもドローン等の活用で都市機能を維持。

デュアルモード社会づくりへの貢献



異なる交通手段の連携や 一体的運用・運営

公共交通、自家用車、自転車、徒歩等を連携させて移動の効率化を促進。



移動や人流データの活用・見える化 （公共交通の効率化、アプリ活用など）

モビリティサービスの利用データや、ビーコン等で収集された人流データ等の活用で効率的に都市交通をマネジメント。



より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取組イメージ）

Digital Smart City HAMAMATSU

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

“賑わい・ワクワク”を増進



家にも本場のレストランの味や様々なサービスを楽しめる。

パンデミックでも飲食店等のデュアルモードをサポート。

フードデリバリープラットフォーム構築

自動運転車の活用

自動運転で移動の車中も車窓からの景色や映画など、楽しみがアップ。忙しいときは、移動中もリモート会議。



観光資源との連携

点在している観光資源もモビリティで繋がることで活性化。

異なる移動手段と観光施設がセット価格で利用できお得で安心。



商業施設との連携

移動履歴データを元に、クーポンを配信したり、サイネージにリコメンド情報を表示。ポイントシステム等との連携も促進し、地域を活性化。



Withコロナ/ポストコロナ時代は、リモートワーク等の普及で、生活拠点をマルチ化する人が増加。

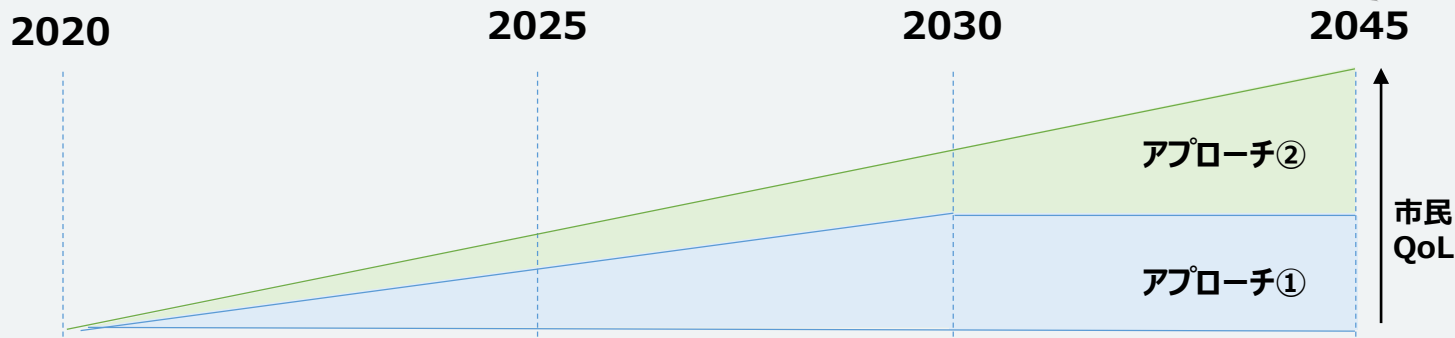
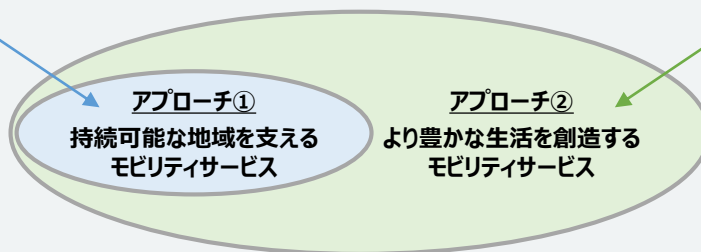
自然に囲まれた環境でストレスフリー。

宿泊施設、新幹線、市内の移動もセット価格（サブスク）でお得で安心。

**多拠点生活用サブスクMaaS
（関係人口向けの移動環境）**



交通・生活課題の解決から取り組み、モビリティ×サービスの連携分野やデータ利活用を拡大していく



“交通・生活課題”を解決



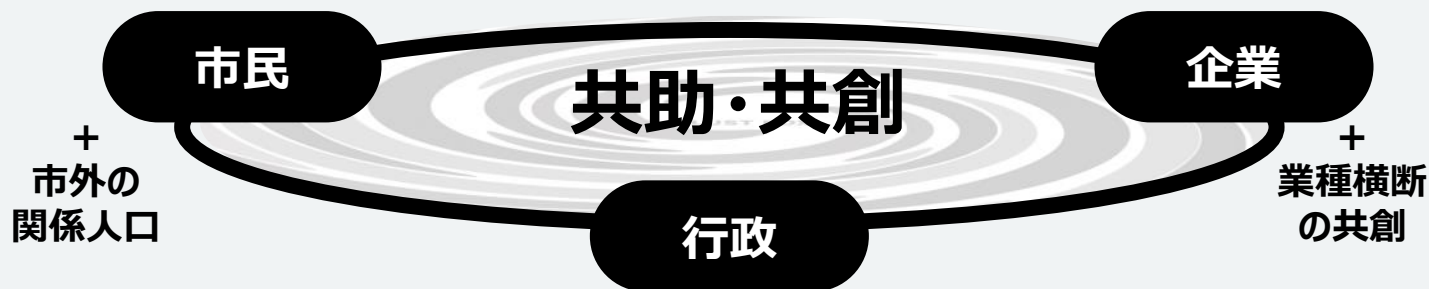
“安全・安心”の確保



“豊かさ・賑わい”を増進



市民・企業の主体的参加で創発性の高いエコシステム形成



エコシステム形成の中核施策

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム



同コンソーシアムを中核とし、官民共創による地域課題解決や地域活性化に資するサービスやソリューションを創出します。

| | |
|----------|---------------------------------|
| 共同幹事 | 浜松市、遠州鉄道株式会社、スズキ株式会社 |
| アドバイザー会員 | MONET Technologies株式会社 |
| 一般会員 | 設立目的に賛同し、共にモビリティサービスの社会実装を目指す会員 |

段階的に導入していく施策例

市民参加の促進

市民ワークショップの開催や、市民×企業の共創を促進するクラウドファンディングなどの促進。



情報発信

浜松版MaaSの取組（PoC等）について、市内外に向けて積極的に情報発信。



9 浜松市内のモビリティ関連のプロジェクト



浜松市内で実施している（又は実施予定）モビリティ関連のプロジェクト

■プロジェクト名称

中山間地域における医療MaaS推進

※経産省採択プロジェクト

■実施団体

浜松市、浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム、（一社）磐周医師会、仁成堂 小澤医院、MONET Technologies(株)、ソフトバンク(株)、(株)杏林堂薬局、(株)トラジェクトリー、(株)博報堂

■背景・目的

◆天竜区の課題

浜松市のなかでも高齢化が進行している中山間地域の天竜区（高齢化率約42%）では、高齢者の通院困難、医師不足、診療所の経営危機に直面している。

◆目的

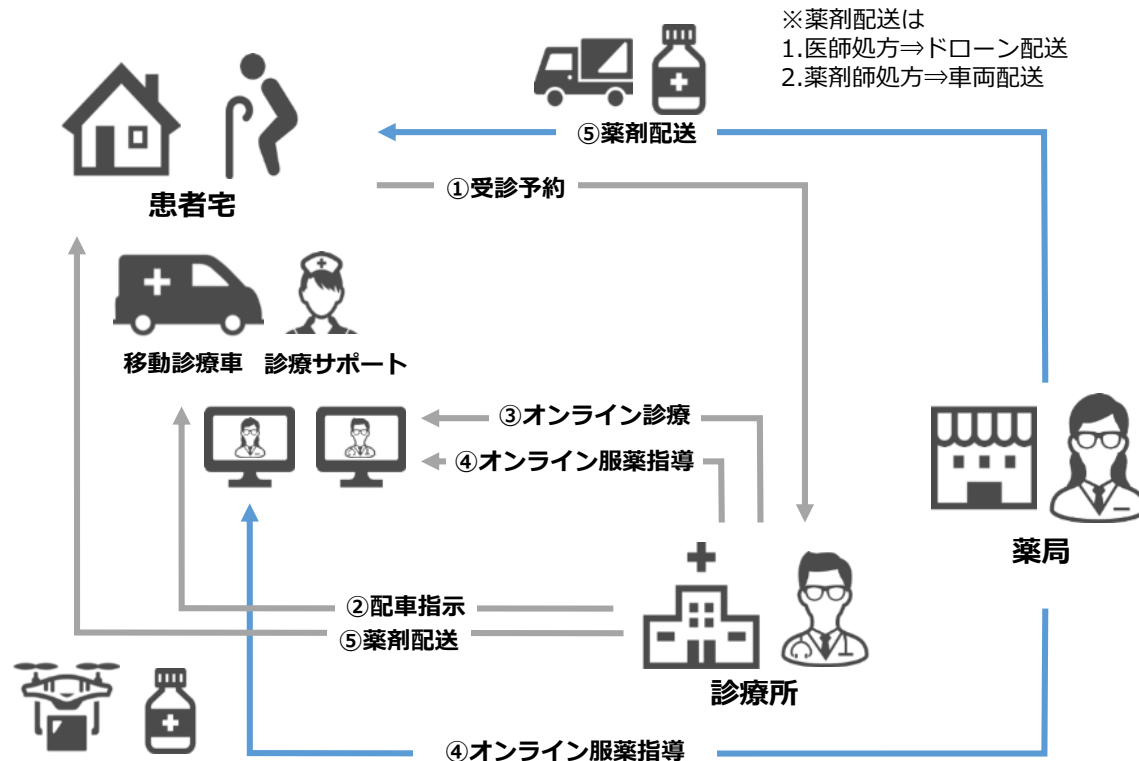
医療資源の乏しい中山間地におけるオンライン診療とオンライン服薬指導、薬剤の配送の運用面や採算性の検証を行う。

◆実証概要

往診患者を対象に移動診療車を用いてオンライン診療を実施し、またオンライン診療を受診した患者に対して、診療所の医師やドラッグストアの薬剤師と連携してオンライン服薬指導を行い薬剤配送を実施する。

■概要

（1）オンライン診療（2）オンライン服薬指導（3）薬剤配送



浜松市内で実施している（又は実施予定）モビリティ関連のプロジェクト

■プロジェクト名称

浜松市佐久間地区MaaS実証実験

※国交省採択プロジェクト

■実施団体

NPOがんばらまいか佐久間、浜松市、TIS(株)（★幹事社）、クレメンテック(株)

■背景・目的

◆MaaSの提供により解決したい地域の課題

既存の地域公共交通に利便性の課題があり、山間部の道路事情（急カーブ、狭い幅員）が厳しい地域では交通弱者が「安全・安心して利用できる」「移動したい時に速やかに乗車ができる」移動手段が必要。

◆実験概要

NPOがんばらまいか佐久間が運営するタクシー運行業務にITを活用したMaaSプラットフォームと電気自動車を導入し、利便性向上と運行業務の合理化、佐久間地区に設置した太陽光パネルで発電した電力を利用しエネルギーの地産地消を行う。

◆交通手段と連携するサービス

利用者全員へ用途限定の地域ポイントを発行。地域内の店舗や施設を訪れることでポイントがもらえる仕組みで、地域活性化に繋がるものと想定。

■概要

再生エネルギーを活用した、過疎地域の交通弱者支援による地域の活性化

ISOU PROJECT

ご紹介映像→<https://www.tis.jp/special/ISOUPROJECT/>

2019年 北海道・厚沢部町でPoC実施

2020年 静岡県・浜松市天竜区佐久間地区でPoC実施予定



浜松市内で実施している（又は実施予定）モビリティ関連のプロジェクト

■プロジェクト名称

官民のデータの統合的分析とその利活用プロジェクト

■実施団体

scheme verge 株式会社

■背景・目的

静岡県や浜松市などの公共機関に限らず、県内人気のレストランチェーンである「さわやか」などの民間事業者は、当該地域に関する多種多様なデータを独自で持っている。これらのデータを統合し、利活用を推し進める事で、今後、モビリティ分野を含んだデータ駆動型のまちづくりを可能とする大きなポテンシャルを有していると考えている。一方で、官民が独自で保有しているデータはいまだに統合された形で利活用されていないのが現状である。

本プロジェクトでは、地域の潜在ニーズを検証しデータ利活用のシステムやビジネスモデルの設計・実証を行うため、官民のデータを統合した上で分析を実施する。

■概要

本プロジェクトにて、官民が有する既存データの分析・解析と利活用手法のデザインを統合的かつアジャイルなプロセスを通じて実施する。その第一手として、既存データ分析に関しては、行政のみならず地元事業者およびその他民間事業者が有するモビリティや地域のコンテンツに関わるデータの統合的な分析を行う。これにより、地域内の移動等にかかる潜在ニーズを検証することができる。その結果、事業者側は、統合されたデータを使用した事業戦略の立案・実施、自治体側は、政策立案への適応および立案に際した民間事業者との事業連携促進を進められる。

既存データの分析等に関して、具体的には、①浜松市、静岡県が保有する人口や施設立地等のオープンデータ、②交通系の民間事業者がICカードによって収集した公共交通の乗降データ等、③非交通系民間事業者が有する店舗のリアルタイムの空き状況等のデータ統合を想定している。

長期的には、本プロジェクトで得られた統合的データの分析を元にコンシューマー向けアプリケーションの開発を想定している。また、分析結果を(交通関連および非交通関連)事業者者にフィードバックするシステムを構築することで、民間事業者のDX推進をサポートし、運営負担・オペレーション負担の軽減等を目指す。



NFC決済、海上タクシー、デマンド送迎等と連携

位置情報やアプリ利用データを活用し需給最適化

フードデリバリープラットフォーム

Digital Smart City HAMAMATSU

■プロジェクト名称

浜松市の食のデリバリープラットフォーム事業 【Foodelix (フーデリックス)】

■実施団体

(株)こころ、(株)日本シャルフ、(株)サンロフト、遠鉄タクシー(株)、エムスクエア・ラボ(株)、(株)モリロボ

■背景・目的

◆外食 → 中食、内食 への変化

コロナウィルスにより外出自粛期間を経て、新たな生活スタイルに変化し、食生活においても、外食から中食、内食へと急激にシフトしている。

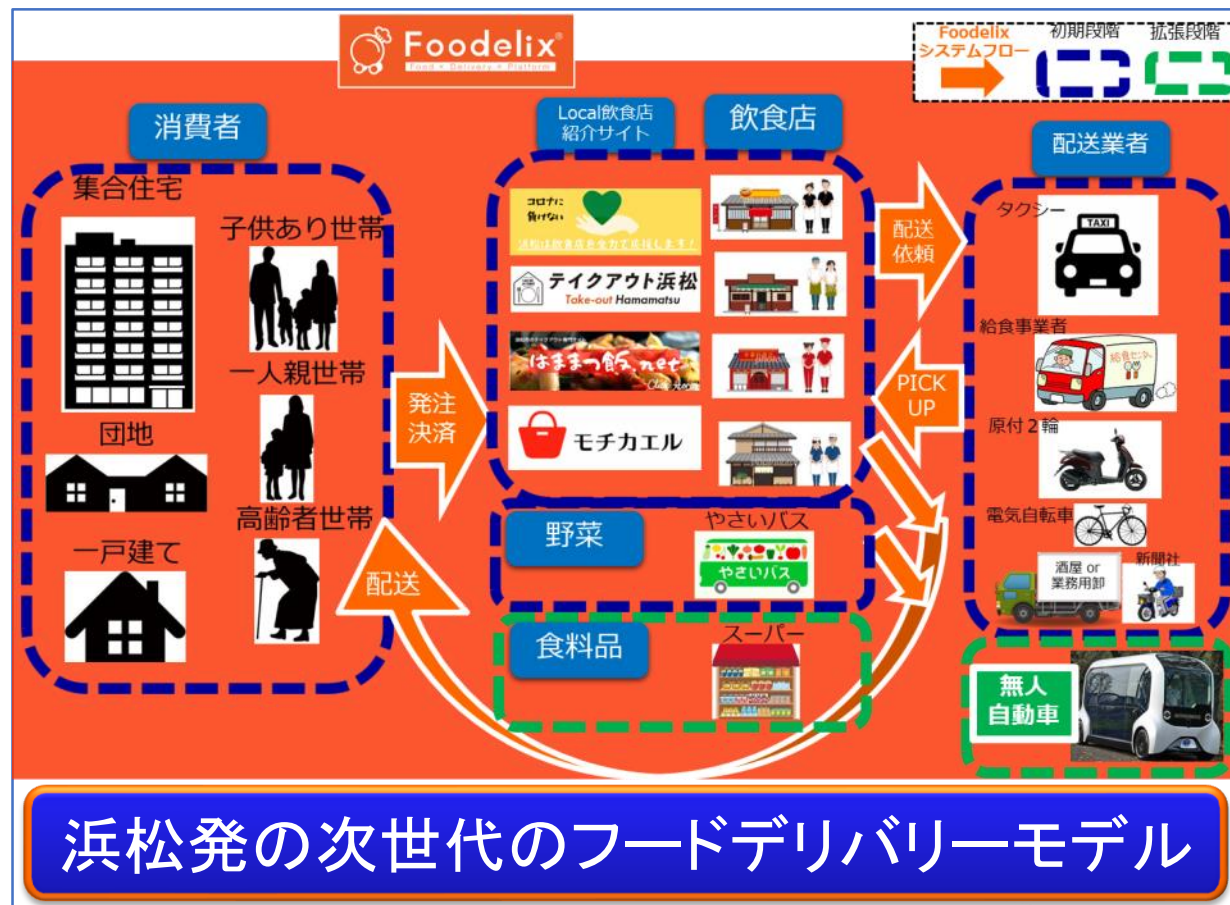
◆フードデリバリー市場の拡大

コロナウィルスの影響により、休業要請等により、売上が急減し飲食店が窮状に陥っている。

◆外食企業 x タクシー企業による連携

同様に需要減少によりタクシー企業の売上が急減し、企業の在宅ワークや出張自粛により、需要が以前と同様に戻っておらず、またワークスタイルの変化により、以前と同様の売上に戻るかどうかかわからない。

■概要



10 おまけ（宣伝）



- ◆ 東京一極集中から地方分散化へ ⇒ オフィスの地方移転の加速
- ◆ 充実の支援制度でベンチャー企業を誘致

ベンチャー支援制度



- ✓ 国土縮図型都市あらゆる実証実験フィールドが存在
- ✓ 最大200万円補助
- ✓ PR・各種調整支援

ファンドサポート事業

- ✓ 市認定ベンチャーキャピタルからの投資額と同額を交付
- ✓ 最大7,000万円

オフィス誘致制度

- ◆ コワーキングスペース等の整備に対する補助
- ◆ サテライトオフィス、シェアオフィス、コワーキングの利用料や宿泊費を補助



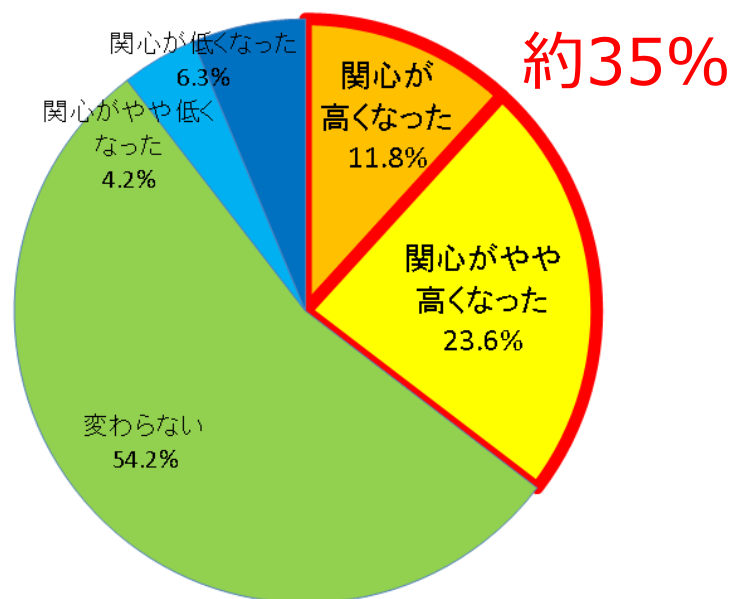
◆ 令和2年7月14日、内閣府から浜松及び愛知・名古屋地域が「スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市」として選定



移住、微住、多拠点居住

- ◆東京圏の就業者の約半数が、テレワークを経験。
- ◆生活を重視、テレワークを継続したいなど、意識に変化。特に、20代を中心に、地方移住への関心が高まっている。

新型コロナ影響下における
地方移住への関心（東京23区20代）



新型コロナウィルス感染症影響下における生活意識・行動の変化に関する調査（令和2年6月21日・内閣府）より引用

浜松の優位性

政令指定都市 幸福度 ランキング第1位

- ✓ あらゆる自然が存在、都市機能も近い
- ✓ 大都市へのアクセス（テレワークにも便利）
- ✓ 強固な産業基盤（就職・起業のしやすさ）

就職・移住支援

- ✓ 会員企業13,500社の浜松商工会議所によるUIターン就職支援（R1年度：134人就職内定）
- ✓ LINEやテレビ会議システムを活用した就職・移住相談を展開

サテライトオフィスやコワーキングスペースなど 首都圏からのオフィス移転の受け皿を整備

市運営のオフィス



(3) 天竜トライアルオフィス

(浜松市天竜区二俣町二俣1283-1)
本市が運営するコワーキングスペース。中山間地域のキーパーソンとのコーディネートや創業講座やイベントなどに対応する。



(2) 浜松市舞阪サテライトオフィス

(浜松市西区舞阪町舞阪2701-9)
浜松市が運営するVBを対象としたオフィス。事務室6室のほか、共有スペースを備えており、打ち合わせやイベント開催等で自由に利用できる。

R2.1オープン

中山間

H30.6オープン

浜名湖

都市部

H29.9オープン

(1) はままつトライアルオフィス

(浜松市中区鍛冶町100-1)
本市が運営するコワーキングスペース。毎週金曜の夜にピッチ大会や勉強会等を開催するとともに、月1回交流会を開催している。



民間運営のオフィス



FUSE

(R2.6月オープン)

浜松磐田信用金庫が運営する拠点。コワーキングスペース、イベントスペース、カフェ、トライアルキッチンなどの様々な機能を備え、コミュニティ・ビルダーが常駐。





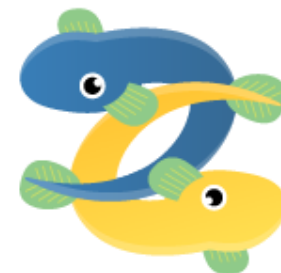
- JAWS-UG浜松

- Hamamatsu.js

- Hamamatsu.rb

- unagi.py

- kintone Café 浜松



Unagi.py



11 おわりに



A large crowd of people is gathered at night, filling a wide street. The scene is illuminated by streetlights and building lights in the background. The year "2005" is overlaid in large white text in the center of the image. In the background, there are buildings, a blue parking sign with a 'P', and some barriers. The crowd is diverse in age and appearance, with many people wearing winter clothing like coats and scarves. Some individuals are looking towards the camera, while others are looking away. The overall atmosphere is that of a significant public event or gathering.

2005



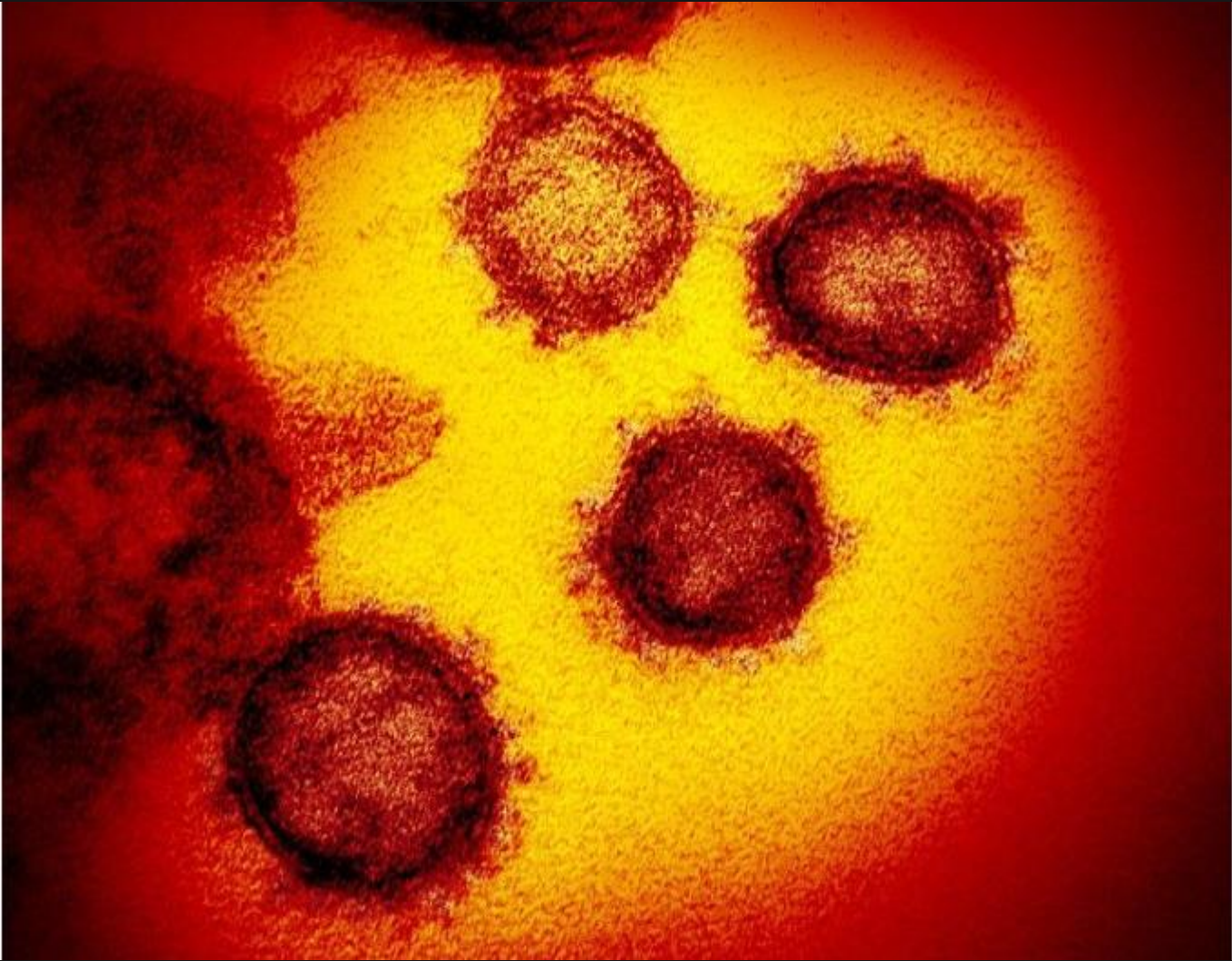
2013

スマートフォン保有率 (日本：2019年)

85.1%



Data : 性年代別メディア層接触 (1日あたり/週平均) : 東京地区、博報堂DYメディアパートナーズ「メディア定点調査2018」



2020

①あたりまえ、常識

②一極集中神話



崩壊

(そんなもんはもうない)

ゲームの
ルールは
変わってしまった



ただし、

デジタル・スマートシティは、
生身の人間にデジタル化を強いる
ことでは絶対ない。

- ・「いろいろな手続きが面倒」
- ・「いま、わたしだけに、私にとって必要な情報だけをプッシュして欲しい」
- ・「役所の窓口で休みを取っていきながら100%人生が無駄」
と思ってる人にはデジタルのベネフィットを提供。

一方で、
30分バスに揺られ、
30分窓口で説明を受けて、
30分かかって書類一式を作成して、
30分かかって帰って行くことが、
その人の顧客体験として
「満足」「幸福」と感じる方もいる。

どちらも「デジタル・スマートシティ」の恩恵を受ける対象でなければならない。

ダイバシティとインクルージョン

決して見捨てたり置いてけぼりにはしない。

デジタル化で生じた流動リソースは、最終的に、Face to Faceに振り分ける。

デジタル・スマートシティは、決して人減らしの政策ではないし、デジタルファーストは、究極の「デジタルデバイド対策」。

誰も見捨てないための デジタルファースト

by ジンナイ・ヒロキ

デジタル庁



LGX